

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：TDM(3)	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：13:15～14:45	
司会者名（所属）：谷口綾子（筑波大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 自動車から他の手段への転換を促すために様々なアプローチによる発表と議論がなされた。特にカーシェアリングについて、何のためにCSを導入するのか、人が集積しているなら公共交通を検討すべきではないか、交通体系にどのようにCSを位置づけるのか、等についての議論が活発に行われた。</p>
	<p>（112）川口さん（東北大）： ・ バス運賃以外の変数を操作する可能性について質問があり、今回は政策変数として運賃のみ扱ったが、それ以外を変更することも可能である旨、説明があった。 ・ 家賃のデータ算出方法について質問があり、大学生協で発行している冊子などを参考に、地域別の学生アパートの平均家賃を算出した旨、説明があった。 ・ 大学の政策として実施する可能性について質問があり、既にいろいろ試しているが、アパートには限りがあり、全ての学生が最適な場所に居住できるわけではなく、今後も検討していく旨、説明があった。</p>
	<p>（113）小滝さん（日本海コンサルタント）： ・ 公共交通への「段階的」な取り組みの具体的なイメージについて質問があり、まずは身近な短距離移動から自動車からの転換を考えてもらう、という意味である旨、説明があった。 ・ インセンティブとして意向を問う場合は、質問の仕方によって回答が変わってしまう可能性があるため、注意が必要であるとのコメントがあった。</p>
	<p>（114）矢野さん（システム科学）： CS:カーシェアリングシステム ・ CSの利用範囲について質問があり、予約した時間帯は自由に使える旨、回答があった。 ・ トリップ数や走行距離が減ったことを効果として挙げているが、モビリティが低下している可能性はないのか。皆でガマンをしてCSを使うのが本当に適正なのか？という点について質問があり、今回は現象に着目している点、また被験者は自ら望んでCSに加入してきたため、モビリティ低下とは捉えていない可能性が高い旨、説明があった。 ・ CSを郊外に設置する場合のポートへのアクセスについて質問があり、事業として成立させるには都心部でなければ難しいと認識されており、アクセスについては考慮していないとの回答があった。 ・ 事前の車利用距離はどのように聞いたのかという質問があり、被験者に思い出してもらい1ヶ月にどのくらい走行していましたか？と聞いているとの回答があった。 ・ CS加入前後ともに自動車を保有していなかった層が多い場合、トータルとして自動車走行距離は増加することになるため、自動車保有者をターゲットとした利用促進策などを模索する必要があるとの議論がなされた。</p>